

アーク切断棒および専用ホルダーの使用注意

酸素アーク棒による切断・穿孔作業は『ガス溶接技能講習修了証』及び『アーク溶接に係わる業務講習修了証』を持った人が行って下さい。

作業前の点検

切断・穿孔作業に取り掛かる前に、下記の点検を必ず行って下さい。

酸素アーク切断・穿孔

酸素アーク切断・穿孔ホルダーは、使用前の点検として下記の事を行なって下さい。

KT89

ヘッドをはずし、コレット（爪）が捻れたり、折れたりしていないか確認してください。また、コレットを取るとパッキンとカラーの順に入っておりますので、ホルダー分解図をご覧になりながらそれらの部品が傷んでいないかを確認してください。パッキンは棒300本を目処に新しいものとお取替えください。ヘッドと本体ヘッド部のネジにスパッタや塵が付着している状態で棒の取り付けを行うと、コレットが棒をしっかり保持していないために、使用中にスパークが発生する危険があります。ネジ部のブローを使用前に必ず行ってください。また、棒を取り付けた後すぐに作業を行わず、一度酸素の空ふかしを行って、棒先端以外からの酸素漏れがないかどうかを必ず確認してください。

KT78

※FN78はヘッドが固定されている以外はKT78と同じ仕様です

ヘッドの角度を変えられるように設計しておりますので、ネック部分の絶縁ゴムキャップを外し、ナットを緩めれば自由に角度を設定できますが、設定後はナットを強く締めて固定し、必ず絶縁ゴムキャップをはめ込んで御使用下さい。又、使用頻度によって（毎日使用される場合は始業前に点検）週に一回程度は、ナットが緩んでいないかをチェックして下さい。分解図をご覧になれば御理解戴けると思いますが、角度を変えられるネック部は、トーチホルダーと本体とが調整ボルト及び締付けナットで面接触しており、ここを電流が流れます。よって、締付けが不十分であったり、接触面間に異物等が付着していると接触不良により、面間でスパークを生じ、更に内部に酸素が流れている為、焼損する危険性があります。角度設定のナットの緩みをチェックされる時に、もし緩んでいたら、接触面への塵等の付着を考慮し、ウエス等で拭き、更にスパークして接触面の部分が損傷していないかを確認して、再度角度の設定をやり直して下さい。

万一、整備不良等によりネック部（接触面）でスパークし、面に凸凹が生じた場合、サンドペーパーやワイヤーブラシ又はグラインダー等で削り直して使用せず、必ず修理に出すか新しい部品とお取替え下さい。安全性を考えれば、一旦角度を設定したら極力変えないようにする事をお勧め致します。使用後はエアブローして塵等を吹き飛ばした後、保管願います。

更にヘッドを外し爪（コレットチャック）が捻れたり、折れたりしていないか、及び爪（コレットチャック）を外すと、ゴムパッキンとベーク皿の順に入っておりますが、ゴムパッキン・ベーク皿が傷んでいないかも確認し、ゴムパッキンは棒300本を目処に新しいものとお取替え下さい。

SC29A

ヘッド部のキャップを取り外し、ゴムパッキン・ベーク皿が傷んで無いかをまず確認して下さい。未使用品は御使用の棒のサイズに設定しておりますが、径の違う棒を使用される際は取扱説明書通りに掴み口を棒径に調整して下さい。板状ゴムパッキンを使用していますので、棒を取り付ける場合は中に押し付けるようにしながらアームを握って棒を固定します。ゴムパッキンは、棒300本を目処に新しいものとお取替え下さい。

SC11C

SC11-6の専用ホルダーです。ヘッドを外し、爪（コレットチャック）が捻れたり、折れたりしていないか、更に爪（コレットチャック）をスパナで取外して、酸素シール及びゴムパッキンが傷んで無いかをまず確認して下さい。ゴムパッキンは、棒300本を目処に新しいものとお取替え下さい。

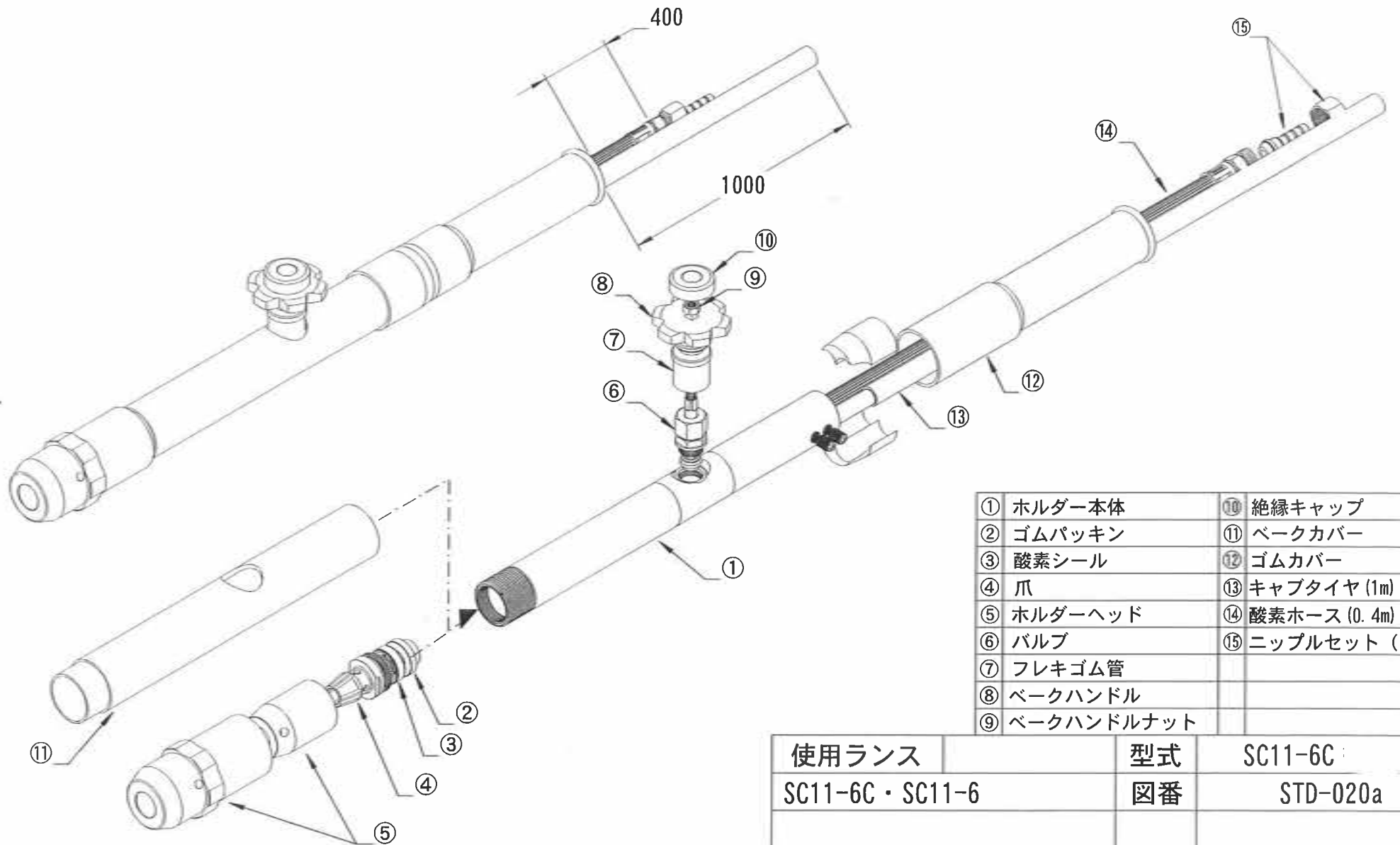
※安全性とホルダーの損傷を防ぐ事を考慮して、棒はヘッドより70mm程度で消火して下さい。

【準備するもの】

- ・酸素及び酸素ホース
- ・酸素調整器
- ・溶接機（直流・交流どちらでも構いません。定格出力電流250Aの標準型で充分です）
- ・キャブタイヤケーブル（38mm²以上のものを御使用下さい。又、ホルダー付属の2mケーブルとの接続にはケーブルジョイントを御使用下さい）
- ・酸素アーク切断・穿孔棒（φ6～φ11mmがあります。用途・切断物の厚さ・材質等に応じて使い分けて下さい）
- ・専用ホルダー及び棒径に適應するホルダー部品（爪、パッキン等）
- ・作業用皮手袋（軍手は使用しないで下さい。万一酸素洩れがあった場合、軍手に酸素がこもり、やけどを負う危険性があります）
- ・耐熱安全保護着（上下）、保護具（耐熱エプロン等）、遮光面（ヘルメット取付けタイプが便利です。但し、SC29Aはバルブ付き専用遮光面を使用します）

Ⓐ 酸素アーク工業株式会社

（福岡・大阪・名古屋・川崎）



① ホルダー本体	⑩ 絶縁キャップ
② ゴムパッキン	⑪ ベークカバー
③ 酸素シール	⑫ ゴムカバー
④ 爪	⑬ キャブタイヤ (1m)
⑤ ホルダーヘッド	⑭ 酸素ホース (0.4m)
⑥ バルブ	⑮ ニップルセット (φ8)
⑦ フレキゴム管	
⑧ ベークハンドル	
⑨ ベークハンドルナット	

使用ランス		型式	SC11-6C
SC11-6C・SC11-6		図番	STD-020a
		製図	瓜生 2012.10.29
		酸素アーク工業株式会社	